

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[28]歳、勤続年数[10]年、現場経験年数[10]年、階級[消防士] 同様の活動[初めて]、任務[隊員]
○当事者B	年齢[37]歳、勤続年数[15]年、現場経験年数[13]年、階級[消防士長] 同様の活動[初めて]、任務[車長]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動[], 任務[]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者Aが	狭隘な重機運転席に個人装備バッグ等を積載した。	
経過2	当事者Bが	重機操縦時の弊害となるため、了承した。	
経過3	当事者Aが	重機搬送車から重機を下し、作動点検を実施。	
経過4	当事者Aが	現場活動一時退避指示のため、重機のエンジンを停止した。	
経過5	当事者Bが	退避指示から2時間弱、現場待機させた。	
経過6	当事者Bが	退避指示解除後、エンジンを始動させるため、セルをまわすがエンジンがかからない。	
経過7	当事者Bが	数回セルをまわしてみるが、エンジンが始動せずバッテリーあがりとなる。	
経過8	当事者Aが	バッテリーあがりを確認し、指揮本部へ報告する。	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

その他：怪我の可能性は極めて低いが、現場活動が出来ない状況となった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

部署位置から現場までの距離があり、徒手による搬送が困難であるため重機の運転席内に過剰に資器材・燃料を積載したことにより発生しました。
--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

重機(油圧ショベル)運転席内の状況

重機全景



ヒヤリハット事案発生時の復元模様 NO1

土砂崩れ現場へ行くため、予備燃料及び個人装備等を運転席内に詰め込むように積載していました。

このため、運転席内はかなり狭隘空間となっていました。

この位置に無線操作切替スイッチがあります



ヒヤリハット事案発生時の復元模様 NO2



無線操作切替スイッチが個人装備バッグで圧迫された状態になっていました。

ヒヤリハット事案発生時の復元模様 NO3



運転中に無線操作切替が個人装備バッグにより、押下されてしまいました。押下された状態では、安全装置が作動しており、無線操作以外ではエンジンを始動させることは出来ません。